

かいぞう

地区広報

平成9年10月18日(土)

地球市民の役割を考えるシンポジウム……

地域から地球を守ろう



苛酷な公害問題を克服した四日市市が、今後の百年を目指し、四日市市制施行百周年を記念して、経済の健全な発展と良好な環境維持の両立を図るため、「地球市民四日市環境フォーラム」が開催された。

その中の地域コミュニティ分科会が海蔵地区で行われた。テーマとして身近な「海蔵川の自然とともに」を掲げ、環境保全を軸にして、よりよい地域社会づくりを目指そうとするものであった。

地元発表者の提言に加えて、イギリス・カナダ・ドイツ・中国の四カ国の実践例が紹介され、地域市民として今後の進むべき方向に貴重な示唆を与えられ、この感動をもとに、一人ひとりの心構えを強調するため「海蔵環境宣言」(次頁)を発表し、より充実したフォーラムの開催であった。

環境フォーラムを紙上に再現し、海蔵川を美しく、そして環境宣言を意義あるものとし、いつまでも受け継がれていくことを願っています

海蔵地区環境宣言を発表する
館 増男 百周年記念事業実行委員長



海蔵環境宣言

国は違えど私たち地球市民は環境保全を地球規模で考え、それぞれの地域規模で行動しなければならないことを決意し、ふるさとの川、海蔵川を心なごみ親しみある川にするため、自然のあるべき姿を求め、川と語らいができるようにします。

自然には休息は無い。自然の刻々の変化・退化は、私たちの生活そのもののありかたに大きくかかわるものである。つねに自然との共生を標榜し、豊かな文化や歴史を育む水・自然の恩恵を感じ、かけがえのない地球を守り、孫子の代に引き継げるようにしなければならない。

青く輝く地球の永遠の像を夢見ながら、具体的な目標のもとに力強く実践することを誓い、環境フォーラム分科会開催記念の海蔵環境宣言といたします。

●エコクラブ「海蔵しぜんクラブ」による調査・研修発表●

「川をよごしているのはわたしたちで、トイレや台所の水が川にながされているから、いくらきれいにみえても、きたないことがわかった。」

「もう水をきたなくしないため、ごみをすてないようにしようと思った。海蔵川をきれいにし、キャンプなどが楽しめて、おおぜいの人がしたしめる川にしたいです。」

「海蔵川は、完全にきたなくなったわけではないのです。みんなが努力すれば、みんなが楽しめるきれいな川になるはずです。ほくのねがいは、みんながおよげる川にしたいです。」

■おとうさんも、おかあさんも、み～んなで海蔵川をかわいがってください。



海蔵川を、COD調査やとうし度計で川の汚れぐあいを調べたり、川の中に入って生物も調べました。上流から下流に行くほどきたなく、どうすれば海蔵川を守れるかをうたえました。

これからもいろんな体験をしながら楽しく学び、地域のため、地球のために自分たちができることからがんばります。

— 海蔵しぜんクラブ団長 —

地域住民約四〇〇名の参加で

「環境フォーラム」

午前に行われたシンポジウムには、全国各地をはじめ、県内、市内そして地区内から熱心な方々の参加で盛大に開催。「海蔵川の自然とともに」をテーマに、かけがえのない自然の保護を訴えました。



加納 俊彦
(青少年育成協議会副会長)

海蔵川の自然とともに

かつて子供の頃、川は生物の宝庫で、身近な遊び場でした。川遊びを通じて子供たちは自然を体験し、命の尊さを学び、自主性や協調性を身に付けました。ところが、使い捨ての生活習慣で水は汚れ、コンクリートを使った河川改修で、いつしか川は排(廃)水路と化し、生き物の生息環境を奪い、子供たちを締め出してしまうました。

「川の自然に接することで、感性の豊かな子に育ってほしい」という親の願いから、9年5月、子供の「海蔵しぜんクラブ」が誕生しました。自分たちで川を体験し、私たちの暮らしと自然環境を見つめています。伊勢湾の水質汚濁の原因は、50%以上が家庭排水であることから、食事で出る汚れなど、各家庭から出る生活排水を浄化しなければ、川や海はきれいになりません。子供たちの21世紀のためにも、家庭一軒一軒の理解と実践が必要です。地球市民としての役割。それは、流域に暮らす私たち一人ひとりが最も身近な「海蔵川」の水環境を大切に、「心なごみ親しみある川」にすることから行動を開始すること。これが海蔵川が注ぐ伊勢湾、そして世界の海をきれいにするにつながります。

世界

かけがえのない美しい地球を守り、引き継ぐため



各国のパネリスト



[中国] 潘明凱 Pang Mingkai

天津市における環境教育と啓発活動

広報活動に力を入れ、環境保全法やそれに関するアイデアのコンクールなどがあり四月二十二日の地球デーには、青年とティーンエイジャーが環境についての知識を競う会などが持たれています。これらは、企業や各種団体の連携を通じて組織的な活動となっております。



[カナダ] エドワード・ボワリング Edward J. Bowering

カナダのトロント市の都市部を流れるドン川流域は、主要道路、公益事業関連施設、鉄道が通り、ゴミ捨て場でもあった。「ドン川を取り戻そう」と地域レベルのコミュニティグループである特別調査委員会のプロジェクトで全体的ビジョン・実験の実施場所の設定、技術面での計画などの決定に関する会議は、すべて公開で行わ

チエスタースプリングス湿地帯 (都市部の河川流域における新しい湿原生息地)

工事は、対象地域に関わるさまざまな部局の協力を得て、トロント市土木課の管理の下に施工され、都市部の河川流域でも、在来動植物の生息地である湿原を取り戻すことができた。官民一体の取り組みの成果である。



[ドイツ] ユルゲン・ボルデル Jürgen Bolder

フライブルグ市における水資源の保護と管理に関する取り組みと成果

水質保全に大切なことは、排水を100%回収し、ほとんど完璧なまでに水質処理をし、自然に戻すことです。的確な水質保全対策をたてるには、水の基本的特性を、生物学的、化学的、生態構造的な側面などから総合的に理解する必要があります。このような知識を基にし、適切な活動計画が立てられる。洪水対策、下水道の設計および管理、排水処理、雨水管理、水質



[イギリス] エイドリアン・ブランデル Adrian Blundell

グランドワーク・行動に向けてのパートナーシップ

「グランドワーク」とは、イギリスに本部を置く環境団体で、持続可能な改善のためのパートナーシップ構築において仲介者としての役割をしている。

- 破壊された自然環境の改善
- 地域住民と共に、楽しい企画を考え、実施から参加までかわっていく
- 企業の環境対策の改善にも地域住民の参加を促す
- 天然資源保全と有効利用を促す
- イギリス事務所調整・作成し、政府・企業・慈善事業団体などから資金を集めている。

を自然の状態に戻すなどに知識が活用されます。計画を実施するのは、市の下水・水質管理課が中心的役割となる。水資源管理は、市民や企業のためのものであるから、必要経費は個人や企業の負担である。コスト回収を基本原則としており、必要な財源は確保可能である。そのため、情報公開と情報請求が保証されています。

水資源管理の例

- 土壌による雨水処理
- 住宅地における小さな河川の管理
- 大規模ショッピングセンター建設により破壊された自然環境の代償として水資源を再生すること

この「環境フォーラム」がきっかけで「海蔵しぜんクラブ」と文通が始まっています。

の環境保全に取り組んでいる人たちの具体的な行動の現状が発表されました。



地域からの発信

環境フォーラムを終えて

こないだ、海蔵川のことであつた。集まり、一体何を話したつたんや。自然、自然って俺たちの悪口言うつたんか。

人間様は俺たちのこと考えたことあるのか。長い間かかって四季のある美しい地球を造つてやつたのに、人間様！この頃勝手し放題とちがうか。

次から次へと新しい物を作る、いらんものは直ぐにほつたる、節約には目もくれずぜいたく三昧、ぬくぬく暖房。電気やガスを起こしたカスはどうなつとんのや。空気の温度が上がるつて騒いどるやないか。南極の水が溶け出したやないか。

川だつて今まで澄んだ流れを作つて、かわいい子供が遊べたのに、岸边をコンクリートで固め、危ないから入るなと子供の夢をつぶしとるやないか。また、魚の登り口を閉じて魚が住めんようにしとる！もうどうなつても知らんぞ！こんなことを繰り返しとる人間様、住みよい地球がどうなつてもよいのか、何年先かわからんが。

俺たちも生きてるんや。人間達といつしよに、青い地球をいつまでも守るためがんばるうやないか。みんな集まつて、こんな話を時間かけて話してほしかったな！
まあいいよ、ハハハ……。

環境に

もっと関心を



環境問題が、地球上の二十一世紀の重要課題の一つと言われている。昨年の地球温暖化世界会議前から、マスコミは各地の産廃問題を大きく取り上げている。

また、行革問題や経済不況からすべての面で見直しが進められ、省力化、省資源化が論議され、その声が大きく響くようになってきた。

環境にやさしくとか、自然を守るとか、或いはリサイクル商品を取上げて求めるとかの声も出ている。なぜこうしなければいけないのか、みんながするからではなく、その理由を探ろうとする意識が大切なのではないでしょうか。

識者は一人ひとりの心構えと云うが

先の、二酸化炭素の削減に関して、わが家でできることは、との問いに対して様々な例が出ていた。省エネには、アイドリングを止める、冷蔵庫の開閉数を減らす、暖房温度を下げる。また、焼却ゴミを減らす、割ばしをやめる、木を切らず緑をふやすとか環境にやさしいアイデアが出されていた。

識者は、最後は一人ひとりの心構えの問題だというのが、それでは実行はおぼつかない。一度ぬくぬく暖房や、飽食、使い捨てに馴れると後戻りは出来にくい。環境に関して確かな認識をもつには、行動と結びついた問題意識がその心構えとなる。



地域でもっと深め合おう

「海蔵しぜんクラブ」の子どもたちが、当日、海蔵川で泳いだり魚つかみができる川にしてほしいと訴えていた。危険を意図して禁止ばかりしてきた大人も再考する余地がある。自然となごみ親しみのある川にすることは不可能なことではない。一人ではできないが、グループや地域で検討することは出来る。大人のエコクラブもほしい。身近な生活の中から環境問題を話し合う機会がつかれないものだろうか。

明日の地球を守るため、環境問題について、地球上の針の穴にも満たないこの地区から、環境元年の発信としていきたい。

人間さん、海蔵地区さん、すごいこと言うてるが自信あんのか、まあ、できるところまでやるんやな！四百人もの人が集まつといてできやんだらおかしいわな！ウツヒツヒツ！
”自然”より

あとながき

いすを並べる人、揭示物を取り付ける人、料理の準備に没頭する人……。フォーラム会場の小学校体育館は、まさに戦場の様子である。しかし、すべての人々が、決められた役目を整然とこなしていく。一年前から計画準備されたものが、着々と実行されていく。多くの人々に支えられて実現したこの手作りのフォーラムは、いつまでも人々の心の中に残るものとなるであろう。

●税金は期限内に納めましょう！
●納税は口座振替が便利です！！

海蔵地区納税協力会からのお願い

